

平成 26 年度海外短期研修報告書

マレーシア春期英語研修（平成 27 年 2 月 23 日～3 月 20 日）

都市教養学部都市教養学科法学系 1 年 向井田 晶代

約 1 か月間のマレーシアでの生活。出発前は長いように感じていましたが、実際はあっという間の日々でした。

私たちは、平日はマラヤ大学の語学学校へ通いました。そこでは、ライティング、文法、単語、リーディング、スピーキングと扱う内容は様々です。ライティングでは、基本の骨組み、Introduction、Conclusion の具体例等が丁寧に示され、わかりやすく勉強になりました。印象に残っているのはとある動画をみた時です。HAPPY という歌の映像が終わると、「自分にとっての幸福というテーマで 3 分間スピーチしてね」と先生。指示があり、クラスのみんなで椅子を並べて輪をつくりました。各自が座ると、爆弾ゲームがスタート。曲が終わった時に回されているものを持っていると…スピーチ発表者になります。素早く回す人、わざとゆっくり回す人、教室は盛り上がりました。そんな中でも、クラスメイトのスピーチは内容のしっかりしたもので、英語をすらすらと喋り、自分の考えを述べる姿に圧倒されました。文法ではプリントを中心に授業が進められ、正しい答えは何なのか、周りと相談することも多くあります。教科書を読んで問題に答える、という時間もあれば、1 時間まるまる話し合いの時間になる場合もありました。

話し合うべき内容が終わると、メンバー内で別の話題で盛り上がることもよくあります。あるとき、私が持つ電子辞書に注目したメンバー。「これって何?」「値段はどのくらいだった?」質問に答えると、「何でここには MADE IN CHINA って書かれているのに値段が高いの?」と聞かれました。ええーと、と答えるのに困ったのも思い出です。このように予想外の質問をされることも多かったです。聞かれること 1 つ 1 つが刺激的でした。なかなか話づらい歴史的内容について意見を求められた時もありましたが、慎重に自分の思ったことを、たどたどしくも述べると耳を傾けてくれ、「Good discussion!」と笑顔で言ってくれたこともありました。



寮での生活も暮らしてゆくうちに慣れていきました。驚いたのは猫がたくさんいたことです。食堂でたびたび現地の学生に抱かれていたり、皆から愛されていました。寮にはプール、ジム、卓球場などがあり、体を存分に動かすことができます。卓球場では、同じ寮に住む他国からの留学生たちと試合をして盛り上がりました。寮には洗濯機が数台あったのですが、使用中であることも多く、基本的には手洗いをしていました。洗い終わるとささやかな達成感と、洗濯機のありがたみを感じる日々でした。

滞在中には、土日等を使って観光に出かけました。イスラム教の国であるマレーシアで、私ははじめてモスクに入りました。外観はもちろん、中に入って天井を見上げた際の、細やかな美しい模様が素晴らしかったです。日本の縁日と市場が合わさったようなナイトマーケット、クジャクや色とりどりの鳥が自由に歩き回るバードパーク。日本では見られないようなたくさんのお名所がありました。



この研修で感じたことの1つは、人々の温かさや親切です。現地の学生が食事を終えた私たちにお菓子をくれ、そこから会話が始まり、寮周辺を案内してもらった時もありましたし、食堂でご飯が出来上がるのを待っていると、おすすめの飲み物を教えてくれたりしました。途中まで同じだからと、タクシーと一緒に乗ろうと誘ってくれた学生もいます。次に、英語が国際語であることです。カンボジア、クエート、リビア、イラク、中国、様々な国々の人が英語という一つの言語を介してコミュニケーションをとる様子を目の当たりにして、英語は世界の人々をつなげる言葉だと改めて実感しました。マレーシアで1か月を過ごすことができて良かったと思っています。興味のある方、ぜひ訪れてみてください。